

昭和59年度試験研究項目一覧表

研究目標	研 究 項 目	担当研究室	摘 要
森林の多目的利用のための基礎技術	森林の生態系——人工林の物質生産と循環機能の解明 (アカマツ・ヒノキ混交林) (ヒノキ間伐試験)	造 林	53～63— ⁵⁹
	森林利用の計画——蓄積経理システムの開発 ・管理システムの確立	経 営	<技術開発> 56～60
森林生産増大技術	地力維持・増進技術の確立	森林土壌の水環境	土 壤 45～60— ⁵⁹
		近畿・中国地域の森林土壌	〃 51～60— ⁵⁹
		森林土壌の易分解性有機物	〃 57～61— ⁵⁹
		竹材生産のための土壌条件の解明	〃 57～62— ⁵⁹
	育林技術の改善	人工林の保有 (スギ間伐方法比較試験) (ヒノキ枝打ち試験) (天然更新と下層植生) (フィリッピンにおける早生) (樹の生長解析)	造 林 37～70— ⁵⁹
		人工林施業法の解明	経 営 47～61— ⁵⁹
		林地肥培	土 壤 43～62— ⁵⁹
		保育形式比較試験	造 林 (30～70)
		合理的短期育成林業技術の確立	〃 (37～67)
		コナラ・クヌギの育林技術	〃 58～62— ⁵⁹
		竹林の生産機構と保育技術	〃 58～62— ⁵⁹
森林の公益的機能の維持増進	水保全技術の高度化	温暖少雨地帯における林況と流出	防 災 (41～72)
		竹林の雨水貯留機能	〃 57～59— ⁵⁹
森林被害防除技術	生活環境保全的——寡雨地帯の育林技術利用技術の確立	岡山試	35～60— ⁵⁹
	病害防除ならびに発生要因の解析 (病害発生状況)	樹 病	56～60— ⁵⁹

研究目標	研 究 項 目	担当研究室	摘 要
	(主要病害の発生要因の解析)		
	—管内虫獣害発生状況調査	昆 虫	30～ 59
	—スギ・ヒノキ穿孔性害虫 (スギカミキリ被害の実態調 査)	”	51～60-59
被害の調査技術 および予察技術 の確立	—(スギカミキリ成虫個体群の 林内移動・分散)		
	—(スギカミキリ成虫の飛翔能 力)		
	—(人工飼料によるスギカミキ リの飼育)		
	—野兎個体群の動態	”	58～62-59
	—西日本におけるハタネズミとス ミスネズミの個体群動態	”	58～62-59
	—竹林および竹材の害虫	昆虫・ 調査室	57～61-59
	—広葉樹の病害 (ミズナラの立枯病)	樹 病	56～60-59
	—(トウカエデうどんこ病)		
	—(クリ立枯病)		
森林管理による 予防技術の体系 化	—サクラ主要病害防除対策	”	<特定研究> (51～)
	—人工林冠雪害の育林的防除技術 開発調査	造 林 防 災 昆 虫	<特定研究> (58～62) 58～59中止
	—マツ類の枯損防止 (マツノマダラカミキリの羽 化脱出消長)		51～60-59
防除技術の改善 および新防除技 術の開発	—(マツノマダラカミキリの保 線虫数)		
	—(マツノマダラカミキリの飛 翔能力と保線虫数との関係)		
	—(スミチオン感受性ヒノキの 落葉防止試験)		
	—マツ枯損防止新技術適用化促進 調査	”	<特定研究> (58～61)
	—発病に関与する生理化学的要因 の解明	樹 病	56～59

昭和59年度試験研究項目一覧表

研究目標	研 究 項 目	担当研究室	摘 要
	<特別研究> マツ枯損防止に 関する新防除技 術開発のための 発病機構の解明 (マツ個体間および種間にお ける抵抗性要因の解析) — 発病の疫学的解明 マツ林分の環境条件の解析 (被害の伝播拡大に関連する) 生物的要因 — 毒性物質の作用機作の解明 (毒性物質生産およびその作 用と抵抗性機構との相互関 連性)	昆 虫 樹 病	57～59 58～59
	<国立公害> 森林食害発生機 構の解明及び被 害抑止技術 — 森林環境別個体群動態解明 (森林環境別個体群構成の解 明) — 森林施業地域における保護管理 技術 (体系的管理モデルの作成)	昆 虫 経 営	56～60 58～60
	<特別研究> スギ・ヒノキ穿 孔性害虫による 加害・材質劣化 機構の解明 — 害虫の個体群動態と被害発生条 件の解明 (害虫の行動習性ならびに個 体群消長とその要因) (被害発生条件) — 材質劣化機構の解明と被害材の 性質 (材変色・腐朽に関する微生 物と材変質機作) — 害虫の加害と林木の生理・抵抗 性の関係 (害虫の加害と林木の生理条 件)	昆 虫 造 林 樹 病 昆 虫	58～61 58～61 58～61
林業技術の 体系化と経 営の近代化	林業技術の体系——林業経営技術体系の確立 化と経営の近代 化 (磨丸太の生産流通構造) (久万林の成立発展) (吉野地方における優良材の 生産構造)	経 営	46～65—㉟

研究目標	研 究 項 目		担当研究室	摘 要
<大型別枠> 生物資源の 効率的利用 技術の開発	合理的林業経営 構造の解明と管 理方法	(高品質材の需給構造) (林業後継者の経営定着化) —育林投資と施業技術の評価 —林業経営管理手法の確立 (林業経営計画に関する問題) (林業経営計算に関する問題) —地域に立脚した林業の総合的 管理方式	経 営 〃 〃	53～58—㊦ 52～61—㊦ 〈場内プロ〉 58～60—㊦
		生物資源の賦存—地域生態系における再生産可能 量の解析と再生 量の評価 産可能量と評価 (林地生態系における再生産) 可能量の評価	土 壌	58～60
		林地生態系にお—ササ資源の繁殖特性利用による ける新樹種の導 収獲技術 入と効率的生産 (繁殖・再生機能の種間差異) システム (刈取収獲と再生量の関係)	造 林	56～59 57～ 61

注) 摘要のうち○は経常研究の中止を示す。これらは組替えして60年度からの新研究推進目標
のなかで実質的に継続される。